

第16回掛川総合スポーツクラブ指導者の会 報告書

平成22年10月27日(水) 19:00～

総合体育館さんりーな 研修室及び武道場

出席者 栗原貞秋 (NPO 法人掛川市体育協会 会長)
松浦金作 (NPO 法人掛川市体育協会 副会長 兼 専務理事)
板垣晶行 (NPO 法人掛川市体育協会 常務 兼 掛スポゼネラルマネジャー)
金子輝男・山下トナエ(日本赤十字社 静岡県支部 救急指導員)
越水律子(健やか・はつらつヨーガ)、
小柳津佳代子(クラシックバレエ・エクササイズ)、
大庭典子・落合育子・永山しのぶ(トランポリン)、
鈴木智博(HIP★HOP)、原田順子(氣功)、山本ときゑ(日本舞踊)、
駒形攻(剣道)、萩原訓子・松本三佐紀・松浦正治(硬式テニス)、
西川恵子・鳥居俊彦(バドミントン)、
名倉孝男・野村嘉秀(ソフトテニスさんりーな)、伊藤薫(サッカー)、
松浦岩男(ソフトボール)、大山節子・松浦和宏(社交ダンス)、
近藤光博(交流)、鈴木秀子(マイレフラ)、大井野恵子(水泳)、
中原信義・松浦圭吾・小池正浩・芹澤佑亮(掛スポ事務局)

1. 開会のことば(松浦)

2. 挨拶(NPO 法人掛川市体育協会会長 栗原貞秋)

本日は、今年度第2回目の掛川総合スポーツクラブ指導者の会です。掛スポの活動状況や、安全に対するマニュアルについての報告を行ないます。また、日本赤十字社による心肺蘇生法についての講習会も行ないます。

今年度体育協会の取組みとして、指導者バンクの体制作りを進めていきたいと思っております。掛スポ登録指導者の皆様の意見も取り入れながら、指導者バンクの推進に努めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

3. 報告事項

1) 平成22年度 掛スポ実績報告について(小池) ※資料P. 1～2参照

・平成22年度 掛川総合スポーツクラブイベントについて

今年度の掛川総合スポーツクラブイベントについての参加人数等一覧にしました。

今後大きなイベントとして、掛スポファミリークリスマスパーティーと掛スポフェスタ

があります。他の教室と交流する機会も少ないですので、是非ご参加ください。

・安全対策アンケート調査結果記載項目について

各講師の方に安全対策のアンケートを実施し、まとめました。

アンケート調査結果のその他については、プールにおいて教室時の子どものトイレなどが含まれています。

4. その他（小池）※資料 P. 3～5 参照

1) 連絡事項（今後の掛スポ活動予定について）

- ・平成 23 年度掛スポ教室の活動について
- ・掛スポ教室安全管理マニュアルの確認について
- ・掛スポファミリークリスマスパーティーについて
- ・第 17 回指導者の会（懇親会）について

2) その他（松浦）

体協として旅行業を取得し、来年 2 月にミーツインスノーというスキーツアーを企画しました。クリスマスパーティーの、目玉景品となっています。是非ご参加ください。

5. 講習会（武道場） 金子・橋本（日本赤十字社静岡県支部）

「救急法講習会」心肺蘇生法+AED ※資料参照

救急法とは、日常生活における事故防止の知識と思わぬ事故や災害にあった人、急病になった人に対して、医師や救急隊に引き継ぐまでの手当などの知識と技術のことです。基本は、観察と確認です。

本日は、手当のところを学び、傷病者が意識障害や呼吸停止、心停止などならないよう、多少なりとも苦痛を軽くし、これ以上悪くならないよう措置を速やかに行えるようにします。

『心肺蘇生法の流れ・見本』

心肺蘇生法（今回は「意識なし」「呼吸なし」で行った。）

- ①傷病者の発見…「人が倒れています」
- ②周囲の観察…「危険なし」自分自身の安全確保
- ③全身の観察…「大出血等なし」
- ④意識の確認…「もしもし大丈夫ですか」肩をたたきながら、3回だんだん強くしていく。「意識なし」or「意識あり」
- ⑤協力者を求める…「誰か協力をお願いします」「あなたは、119番通報をお願いします」

ます」「あなたは、AEDを持ってきてください。」

- ⑥気道確保・呼吸の確認…頭部後屈あご先挙上(後頭部に違和感を感じたらやりすぎ)
「見る、聞く、感じる」7秒ぐらい「呼吸なし」or「呼吸あり」

- ⑦人工呼吸…2回

- ⑧胸骨圧迫・人工呼吸…30回・2回AEDが到着するまで繰り返す。

Point

- ・落ち着いて、正確に行う。

『実技』

- ①1人1体人形を持ち、講師のお手本を見ながら、個々で心肺蘇生法を行う。
- ②講師の周りに集まり、心肺蘇生法の順を追って、注意事項の確認。
- ③注意されたところに気をつけながら、個々で心肺蘇生。繰り返し練習。
- ④想定の傷病者を大人→子供に変更し心肺蘇生。

Point

- ・子供の場合、胸骨圧迫時の手を両手から片手にする。また、余った反対の手で傷病者の額にあて、頭部後屈を行う。
- ・この場合の子供とは、8歳未満・25kg未満の子どものことをさす。それ以上は、大人と同等の扱いを行う。

『AED実技』

- ①見本と説明。
- ②3人1組になり実技。繰り返し練習。

Point

- ・心肺蘇生法実施者は、AEDを運んできた人と心肺蘇生を交代し、AEDを行う。
- ・AEDの電源を入れ、音声に合わせて落ち着いて行う。
- ・パッドを張るとき水気、胸毛、装飾品やペースメーカーなど確認をしっかりと行う。
- ・心電図解析、電気ショック時の安全確認はしっかり行う。

『Q&A』

Q：うつ伏せに倒れている人がいたらどうするか？

A：うつ伏せになっている人に対しては、体の変換作業を行う。その際、頭部に大きな刺激がないよう、気を付けて行う。

終わりに（金子・山下先生）

人が倒れていたり苦しんでいる人を見たとき、皆さんなら声をかけると思います。苦しんでいる人を助けたいという想いは、誰もが持っている優しい心です。今回の講習で、その優しさを行動に移すことができると思います。わからないことがあれば、119番で指示をくれたり、教えてくれます。自分のできること（車の誘導など・・・）を見つけ、より安全かつ迅速に救急法が行えるようにして下さい。

6. 閉会のことば（松浦）